

熊本県版マイスター・ハイスクールによる持続可能な産業人材の育成
～自律的に学ぶ生徒を育てるための学校と産業界の絶え間ない協働～

（自治体において）【申請者の現状・課題】（専門高校として）

○産業団体と教育界の連携成功例が生まれたが持続的な基盤にまで至っていない。 ○マイスター・ハイスクール事業の成果継続のため、熊本県教育委員会は熊本県情報サービス産業協会と「産業人材育成連携協定」を令和5年度内に締結した。 ○すでに経済・産業7団体と「熊本県地域人材育成連携協力協定」を締結しているものの、共通の目標設定や行動計画までには至っていないため、潜在的な可能性を十分発揮できていない。 ○新たに産業実務家教員を依頼する場合に、負荷の大きさに対して企業のメリットが釣り合うような段階になるとは受け取られないことが多い。	○多くの高校で個別の企業と連携した授業や探究活動、キャリア教育が実施されているが、個別の学校と企業の連携は単独の取り組みが多く、産業人材育成ためのカリキュラム刷新や体系的教育の構築には至っていない。 ○先導校(八代工業高校)における成果の活用について、他校での実現は容易ではないと受け取られることが多い。 ○「県立高校半導体関連人材育成事業」や「キャリアプランニング推進事業」におけるコーディネータ活用による連携実績があるが、学校が自律的に企業へ働きかけるような姿勢が育っていない。
---	---

（自治体において）【実施内容】（専門高校において）

○ <u>産業界と学校が自律的・持続的に連携するための仕組みづくり</u> :持続的な地域振興、地域産業界の発展の視点に立った拠点校の市町村・地元産業との連携による市町村単位の産学官連携のエコシステムの構築、産学連携コーディネータによる学校間・学校と企業間のコミュニケーション支援、県の各事業における各コーディネータの情報共有や連携による持続的で効果的な学校支援やマッチング体制の構築 ○ <u>事業実施の過程で得られた知見やプロセスのパッケージ化</u> :県域の産業界との合意形成のプロセス、学校が立地する地域との合意形成のプロセス、学校内における取組のプログラム化のプロセス、本事業の推進における産学連携コーディネータの在り方、他校や産業界に対する成果普及に係る情報発信や周知の在り方、産業界と学校が一体となった体系的教育システムの構築のプロセス等を取りまとめる。	○ <u>複数校での成果の活用</u> :産業界と学校での目標の明確化・共有化、学校全体での組織的なPDCAサイクル、産業実務家教員と学科の継続的な対話、データ分析による改善、先導校の教師及び産業実務家教員による他校向け研修会の実施によるノウハウの共有、産業実務家教員経験者による新規協力企業への研修会の実施 ○ <u>新規拠点校におけるカリキュラム改善</u> :先導校の取組や改善の過程を参考に、産学連携コーディネータの助言を受けながら、指導と評価の年間計画を軸に、それぞれができることを可視化するなど、実施上のすり合わせを十分に行う。 ○ <u>地域が求める人材像の明確化</u> :地域自治体や地元の産業界等との共通認識に向けた推進委員会を設置し、育成したい人材像、事業内容、成果を共有するなど、カリキュラム改善の前提となる地域が求める人材像を明確化する。
--	--

【目的】

（自治体において）本事業（産業界と専門高校の連携）を通してどんな変化を目指すか（専門高校において）

○県域の産業界と教育界、自治体との共通目標と実施計画、各団体の具体的な日程表、客観的な成果指標の開発など連携システムを作り、持続可能な連携基盤とする。 ○上記取組を他校の参考となる自律的なモデルとして確立することで、県全体の高等学校(専門高校・普通高校)への普及を図る。 ○新規拠点校の導入プロセスや企業と連携したカリキュラムの刷新、産学連携コーディネータの果たす役割、課題及び課題解決のプロセスや成果を校種ごとの好事例としてとりまとめ、周知することで、県全体へ普及させる上での高等学校の負担意識の低減と取組意欲の向上を図る。 ○効果的な産学連携コーディネータの活用モデルを作り、将来、数多くの学校を対象とする場合にも産学連携コーディネータの負荷が大きくなりえないシステムを作る。 ○企業にとっての取組価値を明らかにし、連携協定を締結している団体等と協力して積極的に説明することで産業界の参加意欲を高める。 ○市町村単位の取組モデルと県域でのモデルとの連携を示すことで、市町村の取組意欲を高めたり、取り組む上で参考にできるようにする。	○学校と地域の産業界が自律的・持続的に連携する市町村単位のエコシステムを構築する。 ○拠点校で各校の目標とする教育充実のために、学校と企業が効率的に連携しながらカリキュラムの刷新に取り組み、「開かれた教育課程」を実現する。 ○高校生が地域社会の現実のテーマに取り組むことによって、社会の一員としての使命感を持つとともに、主体的に課題発見・解決に取り組む姿勢及び能力を育成する。 ○プロセスや成果を校種ごとの好事例としてとりまとめたものを活用することで、今後、新しく取組みを開始する学校の負担意識の低減と取組意欲の向上を図る。 ○効果的にコーディネータを活用するモデルを作ることで、自律的に学校と企業が互いに連携できるようにする。
--	--

熊本県版マイスター・ハイスクールによる持続可能な産業人材の育成
～自律的に学ぶ生徒を育てるための学校と産業界の絶え間ない協働～

管 理 機 関

熊本県教育委員会

熊本県商工労働部

アドバイザーボード
として助言

産 業 界（産 学 金）

産業実務家教員の派遣（授業・実習）
企業実習・見学の受け入れ
カリキュラム開発への協力

熊本県情報サービス産業協会

熊本県工業連合会

肥後銀行

地域企業・団体

産業実務家教員企業

市町村自治体

地域の産官学との繋ぎ
地域課題の共有
学校への支援

ニーズの把握

依頼・調整

産学連携コーディネータ
高校教育課

ニーズの把握

依頼・調整

育成すべき資質・能力を
共有した上での連携

事業運営委員会

事業実施の意思決定、「マイスター・ハイスクール」の
ビジョン策定、熊本県の産業教育の在り方について
（年2回）

- 熊本県教育長（学校設置者）
- 熊本県商工労働部長（地方自治体）
- 熊本県産業政策名誉顧問 村山 伸樹（産業政策）
- 一般社団法人熊本県情報サービス産業協会長 足立國功（産業界）
- 肥後銀行頭取 笠原 慶久（地方創生）
- 一般社団法人熊本県工業連合会長 田中稔彦（産業界）
- 熊本大学理事・副学長 宇佐川毅（産学連携）
- 熊本大学教育学部准教授 高崎文子（評価検証）
- 武蔵野美術大学造形構想学部教授 若杉浩一（STEAM）
- 各拠点校校長

事業推進委員会

事業実施の具体的手法等について検証、改善、
課題解決（年3回）

- 産業実務家 教員 ●産学連携コーディネータ
- 各拠点校校長、研究主査・副主査、学科主任等
- 一般社団法人熊本県情報サービス協会事務局長
- 熊本県教育庁県立学校教育局 高校教育課長
- 熊本県商工労働部産業振興局産業支援課長
- 肥後銀行地域振興部長
- 一般社団法人熊本県工業連合会事務局長
- 県内大学・高等専門学校等

助言・承認

学 校

八代工業高校

拠点校
4校

玉名工業高校

天草工業高校

阿蘇中央高校（農業・商業・福祉・普通）

先導校

産業界と連携したカリキュラム開発の
深化・発展・整理
新規拠点校へのノウハウの共有・助言

新規拠点校

地域との連携強化による体制の枠組みづくり
産業界と連携したカリキュラム改善
市町村産業関係課との課題の共有
産業実務家教員による授業の実施、企業実習・企業見学
市町村教育委員会との連携による中学校への出前授業
など

各学校が設置

校内運営委員会

育成すべき資質・能力の明確化
連携内容・方法の協議、評価、改善 等

各学校で活用

学校運営協議会